

## USB シリアルドライバー インストールガイド

リリースバージョン: 3.5.1

ドライバーバージョン: 2.1.9.1

サポートする機器: Xenon 1900, Xenon 1902, Honeywell Access Point (HAP), Voyager-1250, Hyperion 1300, Industrial Area-Imaging Scanner, Industrial Charge & Communication Base (CCB02), Honeywell N5600 Series Area Image Engine (PID\_0974 is added), Voyager 1200, IS4823 Microquest Decode, IS4920 Vuquest, Access Point, MS1690 Focus, MS1691 FocusHD, MS1633 FocusBT, MS5145 Eclipse, MS7820 Solaris, MS7600, Horizon, MS3580 QuantumT, MS7120 Orbit, MS7180 OrbitCG, MS3780 Fusion, MS2420 Stratos, MS2421 Stratos, MS2422 Stratos, MS2430 Stratos, MS2431 Stratos, MS2320 StratosH, MS2321 StratosH, MS2322 StratosH, MS2122 StratosE, MS4980, Vuquest, MS4984 Vuquest, MS7580 Genesis, MS9520 Voyager, MS9521 Voyager, MS9540 VoyagerCG, MS9541 VoyagerCG, MS9535 VoyagerBT, MS9590 VoyagerGS, MS9590i VoyagerGS, MS9591i VoyagerGS, MS4980 Vuquest, MS7580 Genesis (NOTE: supports PID 0731 only, which requires custom firmware for both devices), 5110 Area Imager, 3800i, 4800dr, QC890, 4206, 5180 Area Imager, 4600g, 4800p, 3800g, 33xx Area-Imaging Scanner, Voyager-CCB00, Honeywell N8600 Series Area Image Engine, Voyager 1400g Series, Stratos 2700, Laser Engine-N4300, Genesis 7580 Area-Imaging Scanner, 4850DR Document Imager, ED40, Voyager 1450g, 14XX Charge & Communication Base, Granit 1981i CCB, Granit 1980i, 1602 Honeywell Access Point, Xenon HC Charge and Communication Base, 1981 Honeywell Access Point, Voyager-CCB00-Battery-Free, Honeywell N3600 Series Area Image Engine, Voyager 1602g, Xenon 1900hc Area-Imaging Scanner, Solaris 7980 Area-Imaging Scanner, Honeywell N660X Series Area Image Engine

サポートする動作環境:

Windows 10 – 32 bit and 64 bit  
Windows 8.1 – 32 bit and 64 bit  
Windows 8 – 32 bit and 64 bit  
Windows 7 – 32 bit and 64 bit  
Windows XP – 32 bit and 64 bit  
Windows Vista – 32 bit and 64 bit

以下もサポートしますが、WHQL(Windows Hardware Quality Labs)認定ではありません。

Windows Embedded Point of Service (WEPOS 1.x)  
Windows Embedded POSReady 2009  
Windows Embedded POSReady 7  
Windows Embedded 8 Industry  
Windows Embedded 8.1 Industry  
Windows 10 IoT Enterprise LTSC 2015

### USB シリアルドライバーをインストールするには

1.既にインストールされている Honeywell USB シリアルドライバーをアンインストールしてください。

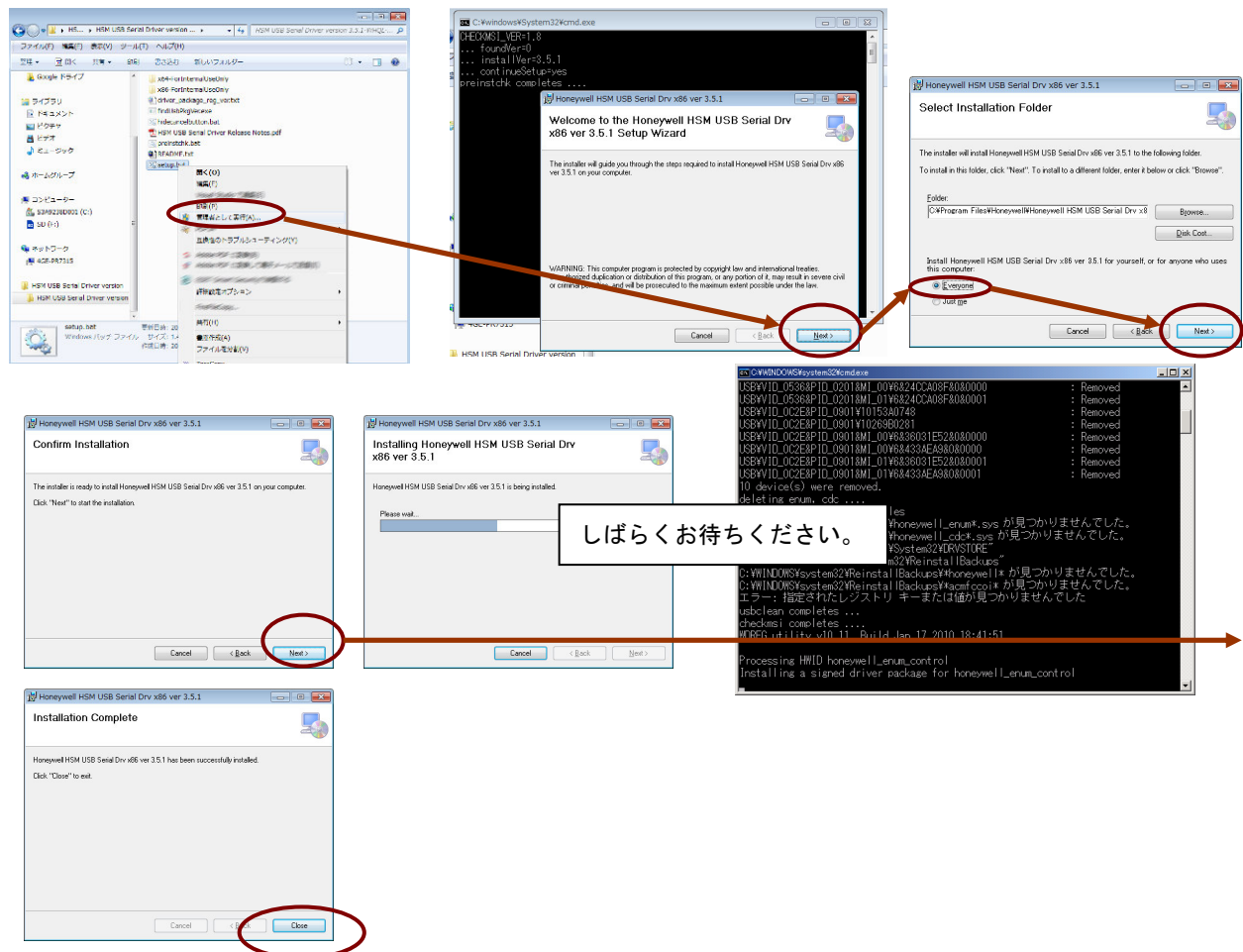
2.ダウンロードもしくはコピーされたドライバーの圧縮(zip)ファイルを展開してください。

注意: Windows 標準の右クリックで「すべて展開」で行ってください。

解凍ソフトによっては属性を変えて展開してしまい、インストール時  
「ファイルが見つかりません」とエラーになります。

3.ドライバファイルより setup.bat を右クリックし、「管理者として実行」を選択し、画面に従ってインストールを行ってください。

注意： インストールする場合は、アドミニストレータ権限が必要になります。

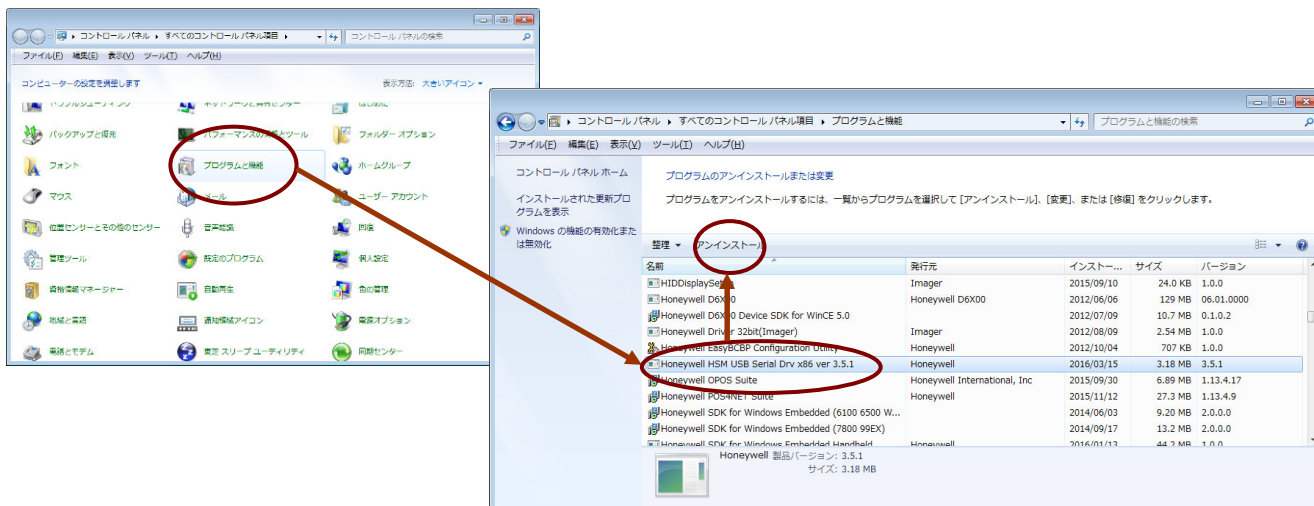


4.サポートされている機器を接続してください。ドライバーが自動でインストールされます。

## USB シリアルドライバーをアンインストールするには

1.コントロールパネルより、「プログラムの追加と削除」(または「プログラムと機能」)を実行し、「Honeywell HSM USB Serial Driver x?? version ???.?」を選択し、アンインストールをクリックして下さい。

注意: アンインストールする場合は、アドミニストレータ権限が必要になります。

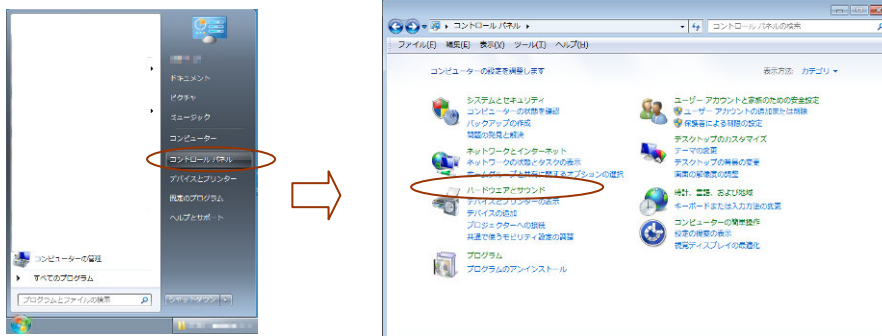


## 既知の問題

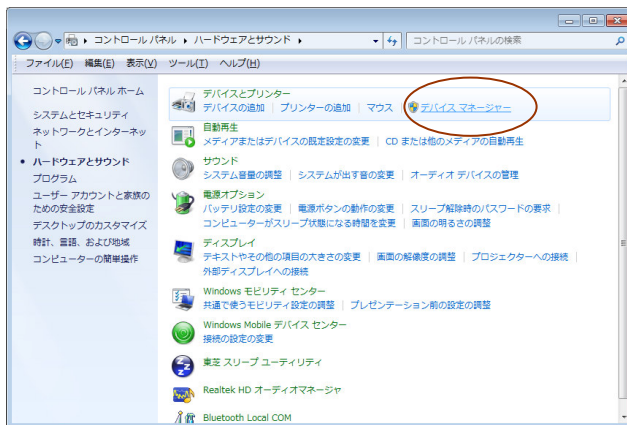
- 「Force COM port feature」が有効になっている時、インストール直後は、デバイスのポートは COM 番号を取得することができません。次のドライバーが開始される時に付加されますので、再度差し直してください。
- WindowsXP SP2 を使用している場合、サスペンドから復帰する時にブルー画面が発生する場合があります。WindowsXP SP3 もしくは、Windows の Hot Fix 949483 を適用してください。  
<http://support2.microsoft.com/hotfix/KBHotfix.aspx?kbnum=949483&kbIn=en-us>
- Windows2000 上で、最初にバーコードをスキャンしてもデータが送信されません。これは 2000 の USB スタックに起因します。Windows2000 はサポートを終了しており、Microsoft 社がこのバグ修正をする事は期待できません。
- 旧 Hand Held Products 時代の COM エミュレーションドライバ(hhpcdc.sys)と新 Honeywell Scanning & Mobility (HSM) USB シリアルドライバーの違い
  - ① 以下に保存されているレジストリの Device 名称は異なります。  
[HKEY\_LOCAL\_MACHINE\HARDWARE\DEVICEMAP\SERIALCOMM]  
旧 HhpcdcVirtualPortx.  
新 honeywell\_cdc\_AcmSerialx.
  - ② アプリケーションは、「WM\_DEVICECHANGE」の通知を受け取れません。USB デバイスを取り外した時でも COM ポートはシステムに存在します。しかし、これは取り外したデバイスのハンドルがオープンされた状態となります。これが新旧ドライバーの違いとなります。  
「WM\_DEVICECHANGE」通知は、デバイスが作成/削除された時にデバイスマネージャより受け取れます。デバイスが取り外されていなければ、WM\_DEVICECHANGE メッセージが生成されないためです。

## COMポート番号の確認、設定方法(Force COM Port)

1. スタートボタンをクリックし、コントロールパネルをクリックしてください。
2. ハードウェアとサウンドをクリックしてください。



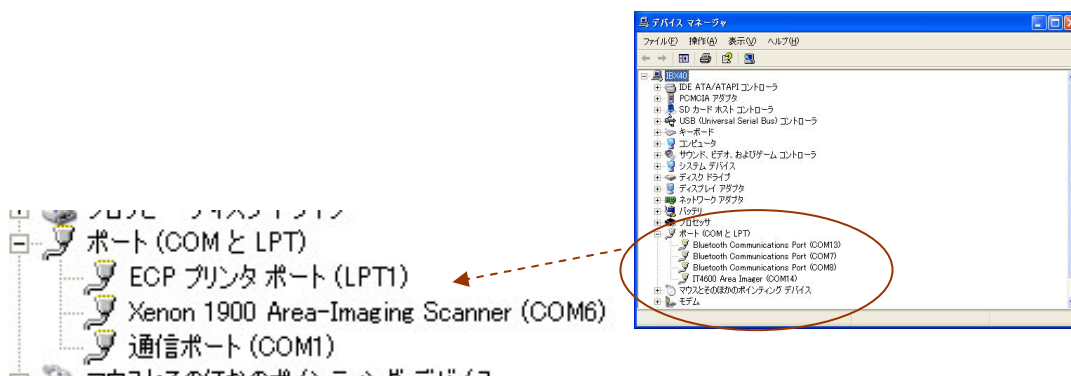
3. ハードウェアとサウンドより、デバイスマネージャをクリックしてください。



4. 「ポート(COMとLPT)」の左にある **+** をクリックすると下にツリー状にCOMポート番号などの情報が表示されます。

※ 「Xenon 1900 Area-Imaging Scanner (COMx)」のxがCOMポートの番号です。

製品名



## 設定方法(Force COM Port) COMポート番号確認の続き

Force COM Port の設定では、Windows 標準の COM ポートの自動割り当てに影響されずに設定された COM ポート番号で割り振ることが可能です。

以下 2 種類の設定が可能です。

### ●PID based list

最大で4つのCOMポート番号をPID番号(デバイスID)と機器単位に紐付け、割り当て設定が行えます。

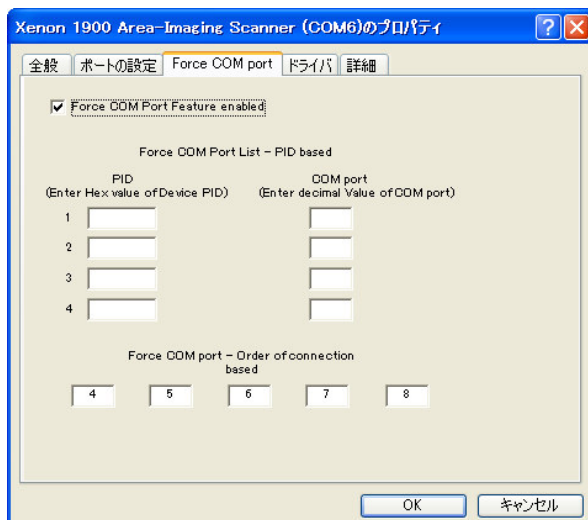
### ●Order of connection based list

最大で5つのCOMポート番号を挿入されたデバイスの順に割り当て設定が行えます。

5. 設定する「ポート(COMとLPT)」を右クリックし、プロパティからプロパティ画面より「Force COM port」のタブをクリックします。「Force COM Port Feature enabled」にチェックを入れることで、Force COM port 設定が利用できるようになります。



6. 「PID based list」もしくは「Order of connection based list」に設定値を入力し OK をクリックしてください。

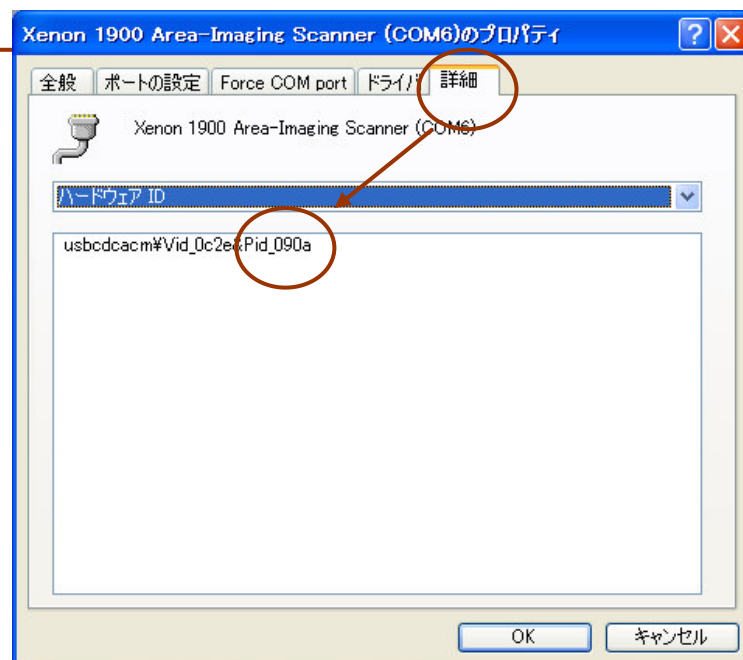


Force COM Port List - PID based

	PID (Enter Hex value of Device PID)	COM port (Enter decimal Value of COM port)
1	030A	15
2		
3		
4		

## PID based list

- ② PID のリストに 4 桁の HEX コードで設定してください。
- ③ COM port のリストに割り当てたい COM ポート番号を設定してください。  
PID は、下記より”Pid\_”以降の 4 桁になります。



Force COM port - Order of connection based  
(Enter decimal Value of COM port)

4	5	6	7	8
---	---	---	---	---

## Order of connection based list

- ① 左より順に割り当てさせたい COM ポート番号を設定してください。  
初期値は、4→8で設定されています。